

Extended Producer Responsibility

9 / 5 石神・堀池・吉川・小林

EPR とは...

“ Extended Producer Responsibility ”

従来の地方自治体による廃棄物処理の責任を民間の企業等に移すことによって、企業自身に製品に対するライフサイクル的な視野を確立することを促し、原料の選び方、製品の製造工程などを環境に与える影響を考慮する形でさらに検討させる。環境と経済の両立を目指し、現状の廃棄物に関する環境管理に革新的な進歩の機会を与えうもの。

(目的): 廃棄物抑制、ならびに再利用・リサイクルを奨め、廃棄物処理の社会的費用を最小化する事。

EPR を施行していく上で、生産者は廃棄物処理の責任を負う事になる。この際生産者は処理の一元化により費用削減と回収の効率を上げる事を目的として P R O を組織する。これにより生産者は自己の製品の処理費用を各々分担して負担する事になる。

PRO : “ Producer Responsibility Organizations ” と呼ばれるもので、E P R 責任を負った生産者達によって作られた組織である。P R O は生産者に代って廃棄物処理の物理的・財政的責任を果たす。P R O をいかに組織し、運営するかが EPR が成功する為にはカギとなる。P R O はメンバーに対する割り当て金と二次的資源のリサイクル業者への売却によって資金を得る。生産者は P R O に割り当て金を払う義務が課せられる為、その費用を低く押さえる為に、廃棄物削減やリサイクルしやすい製品を生産する努力をする事になる。この際、廃棄段階において消費者が費用を支払うという場合は不法投棄の問題が起こるという理由から、一般的には製品の価格にリサイクルコストを上乗せし、内部化するという方法が考えられている。

E P R を実施する際には、その目的達成を阻害する様々な要因が存在する場合がある。それはフリーライダーの存在、リサイクル実施の不徹底、虚偽の結果報告などである。このような場合には、E P R のプログラムデザインを再考する必要性が生じる。そこで必要となってくる物の一つは政府の介入である。政府が後ろ盾となって法律による規制を設ける事などにより、E P R の目的達成を助長することができる。

また、消費者が環境負荷の少ない製品、リサイクルしやすい製品を率先して購入すること、廃棄物の分別を励行することなどが E P R の成功には必要である。

以上のように E P R において生産者が大きな役割を果たしているが、実際には生産者、政府、消費者その他の actors のなかで E P R 責任は share されている。

- ・生産者以外のアクターの助けが必要。生産者のみに負担をかけない。

< というのは、O E C D が示唆していた “ P P P の原則により汚染者 = 生産者で見なして生産者に責任を負わせる ” という論理ではなく、どのアクターに負わせるのが一番効率的かということが最重要である。それが責任を負わせる際の唯一つの基準となるべきであり、より効率的であるならば、生産者以外も責任の当事者となりうる。簡単に言えば、生産者は環境を汚して悪いから責任を持たせるべきだという理屈ではないということ。 >

この E P R の形はあくまで O E C D が提起した基本形である。現実においては国によってそれぞれ状況が違う為、各国でそれに合った効率的な E P R プログラムを導入していくことが重要である。

問題提起： E P R プログラムの中において、消費者の行動の重要性が欠けているのではないだろうか。